

**(報告)「東京電力福島第一原子力発電所事故被災者のための  
より良い健康管理と医療の提供に向けて」**

## 1 現状及び背景

東電福島第一原発事故により、2011年5月時点で約16万人を超える住民が避難を余儀なくされた。複数回の避難をした被災者も少なくなく、また線量の高い地域に一時避難した住民も多かった。事故後の初期被ばく量の推定のために様々な努力がなされているが、十分とは言えない。事故直後、病院や高齢者施設からの避難者には「超過死亡」が認められ、また避難生活の長期化に伴い、震災関連死が多数発生した。福島県では県民健康調査を実施している。そのうち、甲状腺検査により、これまでに191人の悪性または悪性疑いの患者が発見されている。被ばくの影響についての不安に加え避難生活が避難者に与えるこころの負荷は、重層的かつ複雑なものである。生活環境や家族環境の変化、避難者に対する偏見や差別など心理的苦痛を与えている。抑うつなどの症状が避難者の半数に見られ、福島県の震災関連自殺者数は岩手、宮城両県と比べて著しく多く、しかも震災後数年たって上昇に転じている。自治体職員も長期化する避難生活の中で疲弊し、自殺例も増加している。

本分科会は、原発事故が及ぼした健康上の影響が多様な側面に広がっていることを改めて深く認識した。これら問題の全ての側面に関して深く審議することはできなかったが、分科会の議論の対象とし、より一層の対応や配慮が必要であると認識した問題に焦点を当て、考え方をまとめた。

## 2 報告の内容

### (1) 避難に伴う震災関連死を減らすために

入院患者や高齢者施設入所者も避難指示に基づく強制的な避難の対象となった場合、避難によるリスクと避難しない場合のリスクを検討し、短期間に判断しなければならない。避難する場合を想定すると、安全な避難経路、適切な避難先の確保が必須であり、避難しない場合も、食料含め、ライフラインの確保、スタッフのバックアップ体制が不可欠である。原子力発電所で事故が起きた際、避難指示が出される可能性がある地域に、病院や高齢者施設等の避難が適当ではない方々のいる施設が立地していることの妥当性も検討課題である。

### (2) 福島県県民健康調査による甲状腺検査に関して

県民健康調査により発見された甲状腺がん患者に対しては、がんの早期発見による患者の利益の最大化を図ることが重要である。チェルノブイリと比較し、福島県では甲状腺内部被ばく線量が概して低いことに加え、乳頭がんの病理組織亜型ならびに遺伝子異常の特

徴が異なることが示されている。福島県における被ばくの健康影響評価にあたっては、線量推計の精度向上と、甲状腺がんの自然経過の解明と共に臨床病理学的特徴等の知見のさらなる拡充を経て、総合的に議論を深める必要がある。そして、検査のあり方の検討を踏まえつつ検査を継続し、今後のがん検出の動向を予断なく経時的に把握していくことが重要である。しかしその一方、甲状腺がんについては、早期発見が死亡率を下げるメリットにつながりにくいと言われる過剰診断の問題も提起されており、国と東京電力はこのような矛盾が引き起こす困難な状況への責任についても強く認識し、適切な支援を行うことが必要である。

### (3) こころの健康問題への対応

時間の経過に伴う避難住民の流動化、多様化に対応できる支援の継続が必要である。そのためにはメンタルヘルス調査に基づく実態把握を行い、今後の支援の目的やケアのあり方を常に検討すべきである。特に高齢者、子ども、障害者などいわゆる災害弱者に対して、支援者側から積極的にアプローチするサポート・システムの継続、進展が極めて重要である。福島では他の被災県と比べて自殺者率が多い上に、数年たって上昇に転じている点を、医療関係者は十分に認識する必要がある。特に飲酒依存問題は孤独死につながる重要課題であることが認識されており、これまで以上の取り組みが必要である。自治体職員等、支援者への支援対策は復興を促進する上でも極めて重要な課題である。こころのケアセンターのスタッフの安定確保や、各地域における支援者確保も基本的な重要課題である。国の主体的支援と他自治体からの長期継続的支援が求められる。また、かかりつけ医や精神科医療機関等関連諸機関との連携の強化も求められる。放射能汚染に対する偏見といじめの撲滅に向けて、まず大人の意識の転換が必要である。

東電福島原発事故後6年以上が経過した現在も、心身の不調に苦しみ、生活環境の激変と自らの立場の不安定さに悩んでいる被災者がまだ多く、時間の経緯にしたがって問題の性格も変遷している。健康調査が長期継続されるとともに、被災者の実情、立場、希望に柔軟に対応した保健・医療の提供に向けて、国、自治体、専門家による不断の努力、工夫が行なわれることが重要である。